

第12期（令和4年度）

# 総会資料



日時 令和4年4月10日（日）18:30～

会場 清須市にしび創造センター  
清須市西枇杷島町小田井一丁目12-1

日本ボーイスカウト愛知連盟  
尾張東地区

地区HP：<http://www.scout-owarihigashi.org/>

第一部 開会式

開会の言葉	司会 総務副委員長 田口
国旗儀礼、国歌黙唱	コミッショナー 小林
協議会長挨拶	協議会長 井上
スカウト紹介	副コミッショナー 古木
富士スカウト・隼スカウト	

第二部 議案審議

議長選出

書記選任

総務委員会 佐藤、副事務長 中村

総会成立確認

定足数確認報告

(議員数 名)

事務局

出席 名 委任状 名

議案

第1号議案	令和3年度事業報告の件	地区委員長、コミッショナー 各運営委員長、地区ローバース
第2号議案	令和3年度決算・会計監査報告の件	事務局会計係 志水、監事 境
第3号議案	令和4年度事業計画(案)の件	地区委員長、コミッショナー 各運営委員長、地区ローバース
第4号議案	令和4年度予算(案)の件	事務局会計係 志水

第三部 閉会式

副協議会長 挨拶	副協議会長 佐々
連盟歌黙唱	
国旗儀礼	コミッショナー 小林
閉会の言葉	司会 総務副委員長 田口

## 令和3年度事業報告

新型コロナウイルス禍により各団の活動が一時期停滞し、本来の活動ができない状況でした。

日連・県連においては全国大会等がオンライン・代表での開催となり、他の事業も中止となりコロナ禍での活動が制限された一年でした。

当地区においては、活動目標に沿ったスカウト活動ができるように計画をしました。このような状況下で皆さんが知恵を出し努力されただき、この運動の存在価値を社会に明確にするべき活動を御願いしました。各団の皆様方には大変感謝します。

地区内全体では加盟員数は目標には届きませんでした。日本連盟提案のわくわく自然体験事業を13個団が実施され、この停滞する機運を盛り返すべき活動がなされ、新しい仲間も増えました。また、尾張ブロックキャンプを開催、スカウトが、活動を楽しみながら自身が成長と成果を実感し意欲を高める機会を提供しました。このような状況下での参加が難しく考えられた団があり地区全団参加が叶いませんでした。

活動基本となる、夏季長期野営も懸念され、野外活動が制限されました。それぞれ日本連盟・県連盟から提案のあった活動の提案を地区から案内させて戴き活動の盛り上がりを支援しました。

進歩については、遅れの目立つ状況で有り、支援不足と感じます。

団運営は、継続して少人数編成の団においては近隣団との合同集会などを提案しパトローリングシステムの展開できる活動を提案し支援強化をする計画を推進する事ができましたが、一部では社会状況から行動することが制限され、BS・VS部門への高度な野外プログラム支援、BVS・CS部門への年代別プログラム支援も目標には届きませんでした。

指導者の資質向上を目指し、研修所・実修所の参加研修等において、現状況下で研修意欲の低下が見られ参加者減の状況が見られました。定型外訓練等を通じ自己研鑽し資質を高め、成長する事の喜びが感じられる運動を継続できることを達成するため諸研修を提供致しました。

社会貢献活動目標として、防災キャラバンの開催、SDGs、セーフ・フロム・ハームの啓蒙を推進しました。新型コロナウイルス禍の中、各団関係者の皆様方が諸事努力されたのも事に関わらず、スカウト数の増加、中途退団抑止については課題として残り、数年来継続課題として空白地域の新団発足について、団運営者隊指導者の御願いをして参りましたが現状難しい状況でした。

各運営委員会・コミッショナーグループの活動も計画通り実施することができませんでした。

次年度に向けて各団への支援サービスを強化し継続活動して参ります。以上報告を致します。

## 事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

## 評価反省

1. コロナ禍の影響がありましたが、はやぶさを、10月・12月の2回発行することができました。
2. ワクワク自然体験あそびは13個団で開催できました。多くの団に利用頂けるよう取り組みます。
3. 加盟員増加への取り組みとして、地区内でのHPやSNSの活用が充分ではありませんでした。活用頂くための方策を検討して取り組みます。

## スカウト進歩委員会

---

## 事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

## 評価反省

1. 進級目標達成度
  - ① 富士スカウト章修得者 2名 目標3名(昨年1名)
  - ② 隼スカウト章修得者 9名 目標19名(昨年5名)
  - ③ 菊スカウト章修得者 22名 目標35名(昨年23名)
  - ④ 1級スカウト章修得者 23名 目標46名(昨年22名)

\*全団からの進級報告がない為、1級の実績は報告のみの数です。

技能章取得数  
 考査員認定 38(昨年45)  
 隊長認定 139(昨年88)

ボーイ部門はコロナの影響で隊集会が実施出来ない時があり、進級が遅れています。  
 技能章取得もコロナ以前と比べると半減しています。中学3年で2級以下のスカウトが3割ほどありベンチャーでの野外活動に必要な技能が取得出来ず上進するスカウトが多くいると思われます。  
 ベンチャーは富士2名、隼9名と昨年を上回りコロナ以前とも変わらない進級が出来ました。但し団により取り組みに開きがあり取得団が偏っています。
2. カブブックの早期完修とビーバー小枝章5個の取得  
 コロナの影響で、カブブックの完修が大幅に遅れ3月までに完修出来ないスカウトもあるようです。
3. 技能章講習会の開催
  - 10月17日 救急章講習会 参加12名
  - 11月20, 21日 野外炊事章、野営章講習会 参加5名
  - 11月21日 野営管理章講習会 参加9名
  - 1月16日 看護章講習会 参加7名

コロナの影響で6月の救急章は中止しました。初めて隊長認定技能章の講習会を実施しましたが、参加5名と少ない講習会でした。但し多くのボーイ隊指導者が支援していただきました。
4. 定例会議の活性化  
 6回開催、参加率70%で昨年と同じです。参加0が3個団あり課題です。  
 コロナの影響で出席を見合わせる方もあり、コロナが長引けばリモートでの会議も増やす事も検討の必要があります。

### 事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

### 評価反省

1. 新型コロナウイルス感染、拡大防止（緊急事態宣言等）により、地区内での今年度の指導者訓練は定型訓練が1/2回、定形外訓練が4/8回の開催になりました。  
※定型訓練（当地区ボーイスカウト講習会）への参加者は他地区6名、当地区16名、定形外訓練（4回）への参加者は全42名でした。他地区のボーイスカウト講習会参加者は6名でした。  
※定型訓練（WBスカウトコース・団研等）への参加者は全8名でした。
2. 定型訓練、定形外訓練の参加者数が例年に比べて少なく、参加を促進する事が足りなかった。
3. ボーイスカウト講習会修了者には、WB研修所参加に導く事が次年度の課題となります。
4. 指導者養成を促進するために、コミッショナー、トレーニングチームと協同して参加しやすい訓練内容および楽しい訓練方法について協議をして効果的に訓練が出来る運営環境を提供して行きます。

## 行事・国際委員会

---

### 事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

### 評価反省

行事国際委員会活動は、新型コロナ感染拡大に伴い、開催月での重要案件の要否を考慮し対面式を優先し実施しました。委員会設定活動項目については、「団活動が楽しく活発化」や「団訪問同行」事業は十分な活動が出来ませんでした。設定した活動事項をほぼ達成できました。

1. 日本連盟・愛知連盟が主催する事業、日連事業2件、県連事業3件に派遣できました。  
特に「A-HAD2022」へのベンチャースカウト7名、奉仕ローバースカウト3名参加、「愛知ローバームート2022」へローバースカウト11名参加と多数の参加派遣ができ活気ある活動の場を提供できた。しかしながら、一部進歩に結びつかない点もあり、進歩フォローを担当委員会へお願いします。
2. 「緑の募金」「スカウトの日」活動は、各団工夫を凝らし実施できました。  
「緑の募金」活動はコロナ感染防止のため、中止された団がありました。  
「スカウトの日」活動は全団で実施いただきました。
3. 尾張ブロックキャンポリー実施に向け参加者への支援を行いました。  
コロナ禍で、参加辞退団・濃厚接触で辞退した個人もありましたが、18個団よりスカウト137名、RS/指導者75名計212名派遣できました。
4. 各団より「野舎営届」「県外旅行申請書」「集会実施計画書」の提出を受け、「野舎営届」「集会実施計画書」は地区コミッショナーによる行事内容の確認・認可を受けたのち県連へ送付。提出状況を地区委員会等で報告しました。

## 総務委員会

---

### 事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

### 評価反省

1. 体験募集・わくわく自然体験あそびなどの開催情報は入手しましたが、後方支援まではできませんでした。

2. 全国防災キャラバンは、11月7日イオン春日井ショッピングセンターで、春日井地区各団、コミッショングループの協力をいただき、開催することができました。
3. 隊指導者対象セーフ・フロムホームセミナーの参加者は全体で52名。対象者の約半数のため次年度も継続して開催予定しています。RS対象「SFHセミナー」は6名の参加者でした。
4. インシデント報告3件ありました。情報を共有し注意喚起を今後も進めてゆきます。
5. 防災ボランティアコーディネーター養成講座に隊指導者1名、RS2名参加をしました。
6. 防災士育成の講習会は、新型コロナウイルス感染防止対策等で、講習会がリモート開催などで受験資格が得られないなど混乱がありました。次年度も情報収集と情報展開し防災士の育成をします。

## 尾張東地区ローバース Frontier

---

### 事業報告

地区ローバース主催事業については、以下の通りです。

- 総会・第1回定例会（レディヤンかすがい） 参加者：17名  
第2回定例会（オンライン） 参加者：14名  
第3回定例会（オンライン） 参加者：12名  
第4回定例会（瀬戸第6団 団ハウス） 参加者：14名  
第5回定例会（北名古屋第1団野営場） 参加者：13名  
第6回定例会（オンライン） 参加者：13名  
ベンチャー&ローバーの集い 参加者：12名（※参加者はローバースカウトのみ）

### 評価反省

地区ローバースでは、これまで年4回実施していた定例会を、年6回実施しました。うち3回を対面、3回をオンラインで実施し、平均で14名程度が集まりました。定例会では活動報告や活動募集を行うほか、1人でも多くのローバースカウトが集まるよう、ローバースカウトにとって魅力的なプログラムの研究・実践に取り組みました。

またベンチャー部門と合同で取り組んだベンチャー&ローバーの集いでは、参加したベンチャースカウトにローバースカウトを知ってもらえる機会となりました。今後もこういった合同イベントに限らず、地区内のイベント奉仕等でもベンチャースカウトとの関りを大事にしていきます。

例年行っているアクティビティは、新型コロナウイルスの影響により実施できませんでした。地区ローバース幹部会による定例会やアクティビティの実施だけではなく、個々のローバースカウトによってローバー活動が取り組まれるようにすることが、今後の課題であると捉えています。

## コミッショングループ

---

### 事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

### 評価反省

#### 【コミッショナー】

新型コロナによるコロナ禍もすでに2年目となり、コロナ禍における活動にも徐々に慣れつつある状況の中での取り組みとなりました。

各部門における取り組みについては各部門の評価反省のとおりですが、RTの実施をオンラインと対面のハイブリッド開催で実施したBVS、BS、VS部門の各隊出席率を見ても参加がない隊が散見されます。このことは新型コロナウイルスだから参加できない事が理由ではなく、他に参加できない理由があることを示しており、各隊、団の姿勢に疑問を持っています。RTを研修の場として活用し、各位隊指導者へのサービスを提供したいと考える提供者としては非常に残念な結果であり、スカウトへの指導が適正に行われているのか不安です。また、RTへの魅力が少ないため出席に結びついていないことも考えられるため、より一層のRTの内容が充実するように次年度は取り組みを行います。

ブロックキャンポリーへの取り組みについては、新型コロナウイルス感染拡大により大変な苦勞を関係者の皆様にはおかけをしましたが、献身的な協力によりスカウトに良い体験と想いでを提供できたと評価をしています。また、いくつかの問題点が確認できたため、これらの改善に取り組むことで、今後の地区内事業や指導者の指導に役立てます。

本年度は加盟員減少防止のため、団担当コミッショナーと募集活動について積極的な取り組みを行いました。その取り組みは大きく評価をするところですが、コロナ感染の拡大等にスカウト募集活動等の実施が阻まれるなどしたため、結果を出すことが出来なかったことは残念である。次年度以降に結果が数字となって現れるように事業をおこなっていきたいと思います。

#### 【BVS部門】

RTの中で隊長のニーズを聞き出し、プログラムと募集について研究を取り組んできました。

プログラムの研究の中では隊訪問を実施した隊のプログラムの様子を写真に撮ってRTの中で伝えることで自分の隊でのプログラムのヒントにつながったと思います。募集については募集事業から次の隊集会へのつながりを考え、どんなプログラムにしたら入隊へ繋がっていくかを研究してきました。どの隊長も隊員数減について深刻に捉えており、団と隊とがしっかりと連携を取りながら募集事業を進めていく必要性を感じました。

#### 【C S部門】

1. 新型コロナウイルス感染拡大に振り回される1年となり、オンラインでの実施が多かったラウンドテーブルでは、日頃の活動に役立つ情報を共有し、仲間意識を高めることができました。
2. 隊訪問、合同集会は、年間プログラム通りに集会を行うことが難しかったこともあり、計画的に実施できませんでした。次年度は隊長と協力をし、さらに交流できる環境づくりに努めます。

#### 【B S部門】

1. 「尾張キャンポリー2021」を8月に尾張西地区・尾張南地区とともに開催できたことにより、スカウトにとっては長期野営による成長の機会や仲間との交流の機会を提供し、スカウト活動へのモチベーション向上ができました。指導者においても、少人数隊が多い中で、複数班での隊運営や大会本部の支援を受けながら長期野営の運営スキルを身に付けることが出来たのは大きな成果となりました。またコロナ禍での活動継続の1つの在り方を示すことが出来たことも有意義であったと考えます。大会実施にあたり、多くの皆さまのご協力をいただいたことについて、感謝申し上げます。
2. スカウトの進歩については、コロナ禍も影響して低調でした。菊スカウトにしてベンチャー隊に上進させることを目標にしていますが、進歩状況調査により、その手前の1級章取得が大きなネックになっていることも分かってきました。進歩のための技能習得になり、プログラムの楽しさを味わえていない状況や、班制教育が活用されず、班長から班員への技能指導があまり実施されていないことも大きな課題です。中途退団者を減らすためにも「スカウト中心のスカウティング」を再確認し、取り戻していくことが緊急の課題であることを認識し、引き続き取り組んでいきます。

#### 【V S部門】

コロナ禍で、思うような活動ができない中、進級に関しては富士スカウト章1名、隼スカウト章9名となり、目標の隼スカウト章10名には届かなかったものの、評価のできる結果となった。しかし、5個団で9人と団に偏りがあるのも事実である。各団から隼スカウトが出来るよう、支援をしていく必要があると感じた。

他部門との連携に関して、BS部門とはラウンドテーブルを合同で行い、一貫となった進級に対して、各団においてBS部門とVS部門の連携の必要性を理解していただけたと思う。また、RS部門とはVS&RSの集いを通して、VSにRSについて知ってもらう機会を作り、興味を持っていただけたと思う。VS&RSの集いは継続して行い、中途退団することなく、上進へつなげていきたいと考えます。

コロナの影響で、企画していた地区VS部門の行事もできなかった。仲間づくりや活動の活性化のため、今後もベンチャースカウトの集まる場を作っていきます。

## 【R S部門】

昨年度実施したアンケートの結果を踏まえ、今年度よりラウンドテーブルを完全オンライン開催に変更した。しかしながら、年間を通じて参加率は20%未満と低調となっており、各団のローバー隊へのサポートは一方通行となってしまっているのが現状である。RS部門は地区・県・全国の行事への参加が目立ちがちではあるが、他部門への訓練指導の協力・奉仕もRS部門の活動目標のひとつである。次世代の指導者の育成という観点からも重要な部門であるため、次年度はラウンドテーブルに1人でも多くの指導者の参加を望みたい。

一方、今年度下期から、RS指導者に対して、地区ローバース定例会への参席を依頼した。概ね、従来よりRTに参加している指導者の参加にとどまっているものの、自団のスカウトが地区ローバースで活躍する姿を見て、改めてスカウトの成長を感じられたという意見もあり、今後も継続していきたいと考えている。

また、あいち木づかいフェスタ、尾張ブロックキャンポリー、防災キャラバン、VS&RSの集いなどの機会を通じて、ボーイ隊・ベンチャー隊のスカウトとローバースカウトのつながりを持つことができたのは部門として有意義であった。引き続き、他部門および地区ローバースとの協業によって、地区内のローバースカウトの存在感を高めていきたい。

## 【団 担 当】

1. 「スカウト数増加施策」としてスカウト数増加に向けて計画支援と団運営のモチベーションアップを行うことが出来ました。毎月10日に各団から状況を報告頂き「団サミット6」を開催しました。
2. 「団サミット6」において募集活動促し支援を行いました。全団参加には、至りませんでした。団運営に向けてモチベーションアップに繋がりました。
3. 「ワクワク自然体験」において報告を集計し検証を行いました。次年度により良い「ワクワク自然体験」を全団で実施出来るよう支援を促します。

## 事務局

---

### 事業報告

1. 愛知連盟会議出席しました。
  - ・事務長会議 年1回 令和4年3月11日
2. 地区委員会/団委員長会議、他会議の招集開催を致しました。
  - ・地区委員会 9回開催
  - ・団委員長会議 2回開催（web会議含む）
3. 会議資料作成などの事務作業を行いました。
  - ・県連等による配布資料の分配、情報伝達のペーパーレス化を推進しました。
4. 行事費、登録費等会計に関わる資金管理を致しました。

### 評価反省

1. 事務長会議において情報収集、情報交換を積極的に行いました。
2. 地区への情報展開を速やかに行い諸事項について各委員会との協働で遅滞なく各団宛展開することができました。
3. 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から会議の出席人数の制限を行い、情報伝達に努めました。

## 1. 一般会計

## &lt;収入の部&gt;

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	摘 要
1 前 年 度 繰 越 金	317,275	317,275	
2 地 区 費 ( 継 続 登 録 )	1,125,600	1,125,600	20,000×21団+600×1,176人
3 地 区 費 ( 追 加 登 録 )	50,000	33,800	追加登録 65人
4 県 連 回 付 金	62,000	98,802	
1) 訓 練 研 修 費	32,000	16,000	BS講習会
2) 緑 の 募 金 還 付 金	20,000	2,802	緑の募金補助金
3) そ の 他 還 付 金	10,000	80,000	植樹祭
5 雑 収 入	10,000	32	利息
6 積 立 金 か ら 取 り 崩 し	1,000,000	1,000,000	
合 計	2,564,875	2,575,509	

## &lt;支出の部&gt;

科 目	予 算	決 算	摘 要
1 訓 練 研 修 費	270,000	217,079	
1) 指 導 者 講 習 会 ・ 研 修 会	30,000	11,224	BS講習会、各研修会支出ー参加費 (87,724ー76,500)
2) スカウト技能章講習会	40,000	2,855	技能章、フォーラム支出ー参加費 (40,855ー38,000)
3) コミッショナー研修会	200,000	203,000	コミッショナーグループ研修
2 行 事 費	140,000	60,132	
1) 組 織 拡 充 支 援 金	100,000	0	コロナ渦により行事縮小
2) ベ ン チ ャ ー 行 事 費	20,000	40,444	
3) ロ ー パ ー 行 事 費	20,000	19,688	
3 事 業 費	880,000	730,973	
事業費			
組 織 ・ 拡 充 委 員 会	180,000	86,928	地区機関紙(68,448)、HP維持費(18,480)
指 導 者 養 成 委 員 会	60,000	26,870	旅費、活動費、資料代他
ス カ ウ ト 進 歩 委 員 会	50,000	32,313	〃
行 事 ・ 国 際 委 員 会	50,000	117,683	植樹祭、旅費、活動費、資料代他
総 務 委 員 会	50,000	47,116	防災キャラバン、旅費、活動費、資料代他
コ ミ ッ シ ョ ナ ー	250,000	249,571	トレーニングチーム経費、救急チーム経費、旅費、資料代
事 務 局	50,000	42,759	スカウトあいち掲載料 (30,000)
運営費			
会 議 費	140,000	113,250	会場使用料
事 務 ・ 通 信 費	20,000	5,709	振込手数料
慶 弔 費	30,000	8,774	香典
4 備 品 購 入 積 立 金	50,000	50,000	資材、機材、備品
5 大 会 関 係 積 立 金	200,000	600,000	日連、県連各大会
6 大 会 支 援 金	1,000,000	611,885	尾張キャンポリー
7 繰 越 金	24,875	305,440	
合 計	2,564,875	2,575,509	

## 2. 特別会計

科 目	前年度残高	R3 年収入	R3 年支出	次年度繰越	摘 要
1 備 品 購 入 積 立 金	448,830	50,000	0	498,830	
2 大 会 関 係 積 立 金	2,580,000	600,000	1,000,000	2,180,000	大会準備金
合 計	3,028,830	650,000	1,000,000	2,678,830	

令和 4 年 3 月 27 日

## 監査報告書

日本ボーイスカウト愛知連盟  
尾張東地区協議会  
協議会長 井上 勲 殿

日本ボーイスカウト愛知連盟  
尾張東地区協議会

監事 河合正治   
監事 境 正人 

私は、令和3年度の決算において、帳簿並びに関係書類の監査を行った結果、収支決算書は会計帳簿の金額と一致し、尾張東地区の収支状況及び財産状態を正しく示しているものと認めます。

以上

## 令和4年度地区運営方針

### 1 運営方針

スカウト活動が円滑に進める事ができるように、各団それぞれの問題点を提起し、支援をより一層強化し野外活動を通じ、スカウト訓育・指導者養成に向け取り組み、社会に認められる組織に向けた取組みを計画的に推進し団及び各委員会を積極的に支援します。

### 2 目標

#### (1) スカウト数の増加に向けた具体的な施策の実施

- ① 中途退団者をうわまわる新規入団者の獲得を目指す施策を支援します。
- ② 野外活動を通じてスカウト運動の意義を理解展開する為の団支援をします。
- ③ 地区内における市制空白地域の解消、少人数団への支援をします。

#### (2) スカウトが自分の成長と成果を実感し意欲を高める場所を提供し全ての団から、「菊・隼・富士」取得者を目指します。

- ① BS・VS部門への高度な野外プログラム支援の充実をします。
- ② BVS・CS部門への年代別プログラム支援の充実をします。
- ③ プログラム支援を充実させ中途退団の減少を目指します。

#### (3) 指導者育成の充実

- ① スカウト教育法を再確認しウッドバッジ研修所・実修所の参加啓蒙をし、一貫支援（担当制）をし、指導者として資質向上を目指します。
- ② 冒険的な野外活動や国際プログラムをスカウトへ適切に指導提供できるグローバルリーダーの育成をします。
- ③ 人間力向上を目指し定型外訓練への参加を促すだけでなく社会人としての資質を高め、魅力ある指導者の養成をします。

### 3 重点施策

#### (1) 日本連盟・愛知連盟主催「海外派遣事業」・「国内事業」等に向けた支援

- ① スカウト・指導者および関連事業への支援態勢強化をします。
- ② 自然体験活動事業への積極的な取り組みを支援します
- ③ SCOUTS for SDGs・アーストライブへの取り組み目標達成のために支援を推進します

#### (2) 「班（組）活動のできる」団に向けた対応を推進

- ① 広域的な範囲で少人数団（隊）への他団との合同集会を推進します。
- ② 団訪問等による団への支援を強化します。

#### (3) 実効性のある指導者研修

- ① 定型訓練・定型外訓練への参加を啓蒙し地区主催定型外訓練の充実をします。
- ② 継続的にインサービス・サポートの推進をします。
- ③ ラウンドテーブル・運営委員会を研修の場として活用します。
- ④ 活動に必要な外部団体資格取得を支援します。（WFA等）

#### (4) 危機管理体制の充実強化

- ① セーフ・フロム・ハームに関わる対策を強化します。
- ② 防災士・防災ボランティアコーディネーターの養成支援をします。

### 4 各運営委員会事業計画

別紙資料の通りです。

第4号議案

令和4年度予算(案)の件

1. 一般会計

<収入の部>

(単位：円)

科 目		R3年予算	R4年予算	摘 要
1	前 年 度 繰 越 金	317,275	305,440	
2	地 区 費 ( 継 続 登 録 )	1,125,600	1,097,400	20,000×21団+600×1,129人
3	地 区 費 ( 追 加 登 録 )	50,000	50,000	100人
4	県 連 回 付 金	62,000	62,000	
	1) 訓 練 研 修 費	32,000	32,000	BS講習会
	2) 緑 の 募 金 還 付 金	20,000	20,000	緑の募金補助金
	3) そ の 他 還 付 金	10,000	10,000	
5	雑 収 入	10,000	10,000	寄付金、祝儀、利息等
6	積 立 金 か ら 取 り 崩 し	1,000,000	710,000	18NSJ、体験会支援金
合 計		2,564,875	2,234,840	

<支出の部>

科 目		R3年予算	R4年予算	摘 要
1	訓 練 研 修 費	270,000	390,000	
	1) 指 導 者 講 習 会 ・ 研 修 会	30,000	10,000	BS講習会、資料他
	2) スカウト技能章講習会	40,000	30,000	技能章研修会、資料他
	3) コミッショナー研修会	200,000	350,000	研修費、研修所参加費、LT&ALT4名派遣
2	行 事 費	140,000	340,000	
	1) 組 織 拡 充 支 援 金	100,000	300,000	体験会支援金、防災キャラバン
	2) ベ ン チ ャ ー 行 事 費	20,000	20,000	議長会等
	3) ロ ー バ ー 行 事 費	20,000	20,000	地区ローバース活動費
3	事 業 費	880,000	760,000	
	組 織 ・ 拡 充 委 員 会	180,000	100,000	旅費、活動費、地区機関紙、HP維持費
	指 導 者 養 成 委 員 会	60,000	40,000	旅費、活動費、資料代他
	スカウト進歩委員会	50,000	50,000	〃
	行 事 ・ 国 際 委 員 会	50,000	100,000	スカウトラリー、旅費、活動費、資料代他
	総 務 委 員 会	50,000	50,000	旅費、活動費、資料代他
	コ ミ ッ シ ョ ナ ー	250,000	250,000	地区トレーニングチーム、救急チーム経費
	事 務 局	50,000	30,000	スカウトあいち掲載他
	運 営 費			
	会 議 費	140,000	120,000	会場使用料
	事 務 ・ 通 信 費	20,000	10,000	振込手数料
	慶 弔 費	30,000	10,000	祝儀他
4	備 品 購 入 積 立 金	50,000	20,000	資材、機材、備品
5	大 会 関 係 積 立 金	200,000	200,000	日連、県連各大会
6	大 会 支 援 金	1,000,000	500,000	18NSJ
7	予 備 費	24,875	24,840	
合 計		2,564,875	2,234,840	

2. 特別会計

科 目	前年度残高	R4年収入	R4支出	次年度繰越	適 要
1 備 品 購 入 積 立 金	498,830	20,000	0	518,830	
2 大 会 関 係 積 立 金	2,180,000	200,000	710,000	1,670,000	大会準備金
合 計	2,678,830	220,000	710,000	2,188,830	

## 資料

### 令和3年度 隼スカウト・富士スカウト 伝達者名簿 ( 取得順 )

隼スカウト		富士スカウト	
春日井第2団	吉川 真由	春日井第2団	高井 紗璃
瀬戸第6団	村松 明良	春日井第2団	吉川 真由
春日井第8団	齋藤 柚季		
春日井第8団	佐藤 世唯		
春日井第10団	谷崎 雄紀		
春日井第10団	滝川 真隆		
春日井第10団	成富 慧也		
小牧第2団	藤澤 隼人		
小牧第2団	大塚 洋慶		

### 令和3年度運営委員会出席状況表

#### 組織・拡充委員会

	出席/開催	出席率
犬山第5団	0/6	0%
犬山第7団	0/6	0%
大口第1団	5/6	83%
尾張旭第1団	6/6	100%
春日井第2団	5/6	83%
春日井第4団	5/6	83%
春日井第5団	6/6	100%
春日井第8団	5/6	83%
春日井第10団	6/6	100%
北名古屋第1団	6/6	100%
北名古屋第2団	6/6	100%

	出席/開催	出席率
清須第1団	3/6	50%
江南第1団	2/6	33%
江南第3団	6/6	100%
小牧第1団	2/6	33%
小牧第2団	6/6	100%
瀬戸第1団	6/6	100%
瀬戸第6団	6/6	100%
長久手第1団	0/6	0%
日進第1団	2/6	33%
日進第2団	6/6	100%
平均出席率	89/126	71%

#### スカウト進歩委員会

	出席/開催	出席率
犬山第5団	2/6	33%
犬山第7団	3/6	50%
大口第1団	3/6	50%
尾張旭第1団	2/6	33%
春日井第2団	5/6	83%
春日井第4団	5/6	83%
春日井第5団	5/6	83%
春日井第8団	5/6	83%
春日井第10団	6/6	100%
北名古屋第1団	6/6	100%
北名古屋第2団	0/6	0%

	出席/開催	出席率
清須第1団	0/6	0%
江南第1団	6/6	100%
江南第3団	6/6	100%
小牧第1団	6/6	100%
小牧第2団	5/6	83%
瀬戸第1団	6/6	100%
瀬戸第6団	5/6	83%
長久手第1団	0/6	0%
日進第1団	6/6	100%
日進第2団	6/6	100%
平均出席率	88/126	70%

### 指導者養成委員会

	出席/開催	出席率
犬山第5団	1/3	33.3%
犬山第7団	2/3	66.6%
大口第1団	2/3	66.6%
尾張旭第1団	2/3	66.6%
春日井第2団	2/3	66.6%
春日井第4団	3/3	100%
春日井第5団	3/3	100%
春日井第8団	3/3	100%
春日井第10団	1/3	33.3%
北名古屋第1団	1/3	33.3%
北名古屋第2団	3/3	100%

	出席/開催	出席率
清須第1団	2/3	66.6%
江南第1団	3/3	100%
江南第3団	2/3	66.6%
小牧第1団	1/3	33.3%
小牧第2団	2/3	66.6%
瀬戸第1団	3/3	100%
瀬戸第6団	2/3	66.6%
長久手第1団	1/3	33.3%
日進第1団	2/3	66.6%
日進第2団	1/3	33.3%
平均出席率	42/63	66.6%

### 行事国際委員会

	出席/開催	出席率
犬山第5団	0/4	0%
犬山第7団	2/4	50%
大口第1団	1/4	25%
尾張旭第1団	0/4	0%
春日井第2団	4/4	100%
春日井第4団	3/4	75%
春日井第5団	4/4	100%
春日井第8団	4/4	100%
春日井第10団	4/4	100%
北名古屋第1団	4/4	100%
北名古屋第2団	3/4	75%

	出席/開催	出席率
清須第1団	2/4	50%
江南第1団	4/4	100%
江南第3団	3/4	75%
小牧第1団	4/4	100%
小牧第2団	4/4	100%
瀬戸第1団	4/4	100%
瀬戸第6団	2/4	50%
長久手第1団	0/4	0%
日進第1団	0/4	0%
日進第2団	4/4	100%
平均出席率	56/84	66.6%

### 総務委員会

	出席/開催	出席率
犬山第5団	1/1	100%
犬山第7団	0/1	0%
大口第1団	1/1	100%
尾張旭第1団	1/1	100%
春日井第2団	1/1	100%
春日井第4団	1/1	100%
春日井第5団	0/1	0%
春日井第8団	0/1	0%
春日井第10団	1/1	100%
北名古屋第1団	1/1	100%
北名古屋第2団	1/1	100%

	出席/開催	出席率
清須第1団	0/1	0%
江南第1団	0/1	0%
江南第3団	0/1	0%
小牧第1団	0/1	0%
小牧第2団	0/1	0%
瀬戸第1団	0/1	0%
瀬戸第6団	0/1	0%
長久手第1団	0/1	0%
日進第1団	1/1	100%
日進第2団	0/1	0%
平均出席率	9/21	43%

■ラウンドテーブル出席表

	BVS									CS								
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	出席率	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	出席率
	5月23日	6月27日	7月25日	9月26日	10月24日	11月28日	1月23日	2月27日		5月23日	6月27日	7月25日	9月26日	10月24日	11月28日	1月23日	2月27日	
犬山5	x	o	o	x	x	x	x	x	25	x	x	x	x	x	x	x	x	0
犬山7	o	o	x	o	o	x	o	o	75	o	o	o	o	o	o	o	o	100
大口1	o	x	x	x	x	o	x	x	25	o	o	x	o	x	o	o	x	63
江南1	o	o	o	o	o	o	o	o	100	o	o	o	o	x	o	o	o	88
江南3	o	x	o	x	o	x	o	x	50	o	o	o	o	o	o	o	o	100
北名古屋1	o	o	o	o	x	x	x	x	50	o	o	o	o	o	o	o	o	100
北名古屋2	o	x	o	x	x	x	o	x	38	o	o	o	o	o	o	o	o	100
清須1	x	x	x	x	o	o	x	x	25	x	x	x	x	x	x	x	x	0
小牧1	x	x	x	x	x	x	x	x	0	o	o	o	o	o	o	o	o	100
小牧2	o	o	o	o	o	o	o	o	100	o	o	x	o	o	o	o	o	88
春日井2	o	o	o	o	o	o	o	o	100	o	o	o	o	o	x	o	x	75
春日井4	x	x	x	x	x	o	x	x	13	x	x	o	x	o	o	x	x	38
春日井5	o	o	o	o	o	o	o	x	88	x	x	x	x	o	x	x	x	13
春日井8	o	o	o	o	o	o	o	o	100	x	x	o	x	o	o	x	x	38
春日井10	o	x	o	o	o	x	o	x	63	o	x	o	o	x	o	o	x	63
瀬戸1	-	-	-	-	-	-	-	-	0	x	x	x	x	x	x	x	x	0
瀬戸6	o	o	o	o	o	o	o	o	100	x	x	x	x	x	x	x	x	0
尾張旭1	o	x	x	x	x	o	o	x	38	o	o	o	o	o	o	o	o	100
長久手1	x	x	x	x	x	x	x	x	0	x	x	x	x	x	x	x	x	0
日進1	o	x	x	o	o	o	x	x	50	o	o	x	o	x	o	o	o	75
日進2	o	o	o	x	o	o	x	o	75	x	x	x	x	x	x	x	x	0
隊数	20									21								
出席数	15	10	12	10	12	12	11	7	89	12	11	11	12	11	13	12	9	91
出席率	150	100	120	100	120	120	110	70	56	57	52	52	57	52	62	57	43	54

	BS									VS								
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	出席率	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	出席率
	5月23日	6月27日	7月25日	9月26日	10月24日	11月19日	1月23日	2月27日	出席率	5月23日	6月27日	7月25日	9月26日	10月24日	11月28日	1月23日	2月27日	出席率
犬山5	o	o	x	x	x	x	x	o	38	x	x	x	x	x	x	x	x	0
犬山7	o	o	o	o	o	x	o	o	88	o	x	o	o	o	x	o	o	75
大口1	o	o	o	x	o	x	o	x	63	o	x	o	o	o	o	x	x	63
江南1	o	o	o	o	x	o	o	o	88	o	o	o	o	o	x	x	o	63
江南3	o	o	o	o	x	o	o	o	88	o	o	o	o	o	o	o	o	100
北名古屋1	o	o	o	o	o	x	x	o	75	o	o	o	o	o	o	x	o	86
北名古屋2	o	o	o	o	x	o	o	x	75	x	o	o	o	o	o	o	x	86
清須1	x	x	x	x	x	x	x	x	0	x	x	x	x	x	x	x	x	0
小牧1	o	o	o	o	o	o	o	o	100	o	o	o	o	o	o	o	o	100
小牧2	o	o	o	o	o	x	o	o	88	o	o	o	o	o	o	o	x	100
春日井2	o	o	x	o	o	x	o	o	75	o	o	o	x	o	o	o	o	88
春日井4	o	o	o	o	o	x	o	o	88	o	o	o	o	o	x	o	o	88
春日井5	o	o	o	o	o	o	o	o	100	o	x	o	x	o	o	o	o	63
春日井8	o	o	o	o	o	o	o	o	100	x	x	x	x	o	o	o	x	38
春日井10	o	o	o	o	x	x	o	o	75	o	o	o	o	o	x	x	o	75
瀬戸1	o	o	x	o	o	o	o	o	88	o	o	o	o	o	o	o	o	100
瀬戸6	o	o	x	o	o	x	o	o	75	o	o	o	o	x	o	x	o	75
尾張旭1	o	o	x	o	o	x	o	o	75	-	-	-	-	-	-	-	-	0
長久手1	x	x	x	x	x	x	x	x	0	o	x	x	x	x	x	x	x	13
日進1	o	o	o	o	o	o	o	o	100	o	o	o	o	o	o	o	o	100
日進2	x	o	o	o	o	o	o	o	88	o	o	o	o	o	o	o	o	100
隊数	21									20								
出席数	18	19	14	17	14	9	17	17	125	16	13	16	14	15	12	12	13	98
出席率	86	90	67	81	67	43	81	81	75	80	65	80	70	75	60	60	65	69

	RS				
	第1回	第2回	第3回	第4回	出席率
	4月10日	6月13日	10月17日	2月27日	
犬山5	x	x	x	o	25
犬山7	x	o	x	x	25
大口1	x	x	x	x	0
江南1	x	x	x	x	0
江南3	x	x	x	x	0
北名古屋1	x	o	x	x	25
北名古屋2	x	x	o	x	25
清須1	x	o	x	x	25
小牧1	x	x	x	x	0
小牧2	o	x	o	x	50
春日井2	x	x	x	x	0
春日井4	x	x	x	x	0
春日井5	o	x	o	x	50
春日井8	x	x	x	x	0
春日井10	x	x	x	x	0
瀬戸1	x	x	x	x	0
瀬戸6	o	x	x	x	25
尾張旭1	x	x	x	x	0
長久手1	x	x	x	x	0
日進1	x	x	x	x	0
日進2	o	o	o	o	100
隊数	21				
出席数	4	4	4	2	14
出席率	19	19	19	10	17

令和3年度表彰履歴(敬称略)

日本連盟	感謝状	舩橋 鐸夫	小牧 第1 団
	たか章	小林 泰陸	春日井 第4 団
		中村 倫之	小牧 第1 団
	かっこう章	河村 武人	北名古屋 第1 団
		中村 友一	北名古屋 第2 団
		林 由美子	尾張 旭 第1 団
	特別年功章	5年	14名
		10年	5名
		15年	3名
		20年	4名
	隊褒章級	15年	清須 第1 団 ビーバー 隊
		25年	長久手 第1 団 ローバー 隊
			春日井 第10 団 ローバー 隊
		30年	春日井 第2 団 ローバー 隊
			春日井 第5 団 ビーバー 隊
			春日井 第8 団 ビーバー 隊
		35年	犬山 第5 団 ビーバー 隊
			江南 第3 団 ビーバー 隊
			北名古屋 第2 団 ビーバー 隊
			瀬戸 第1 団 ビーバー 隊
瀬戸 第6 団 ビーバー 隊			
小牧 第2 団 ビーバー 隊			
45年		犬山 第5 団 ボーイ 隊	
	江南 第3 団 ボーイ 隊		
	瀬戸 第1 団 ローバー 隊		

		50年	北名古屋第1団ベンチャー隊 瀬戸第6団カブ隊 春日井第5団ボーイ隊
		55年	江南第1団カブ隊 小牧第1団ボーイ隊
愛知連盟	県連感謝章	岩田秀雅	春日井第8団ベンチャー隊長
		井上勲	小牧第2団 団委員長
	県連特別有功章	金田勉	清須第1団 副団委員長
	県連有功章	渡邊千恵	北名古屋第2団 ビーバー隊副長
		小川恭平	瀬戸第1団 ボーイ隊隊長
		椎葉文也	江南第3団 ロバー隊隊長
	顕彰記章	岩瀬左帆	小牧第2団

地区役員

役 務		氏 名	所 属
顧問		舩 橋 鐸 夫	小 牧 第 1 団
		中 村 隆 二	春 日 井 第 2 団
		横 江 昭 憲	日 進 第 2 団
協議会長		井 上 勲	小 牧 第 2 団
協議会副会長		中 村 倫 之	小 牧 第 1 団
		河 村 武 人	北 名 古 屋 第 1 団
		佐 々 由 高	犬 山 第 7 団
地区委員長		平 野 嘉 彦	北 名 古 屋 第 1 団
地区副委員長		中 村 友 一	北 名 古 屋 第 2 団
		伊 吹 登	長 久 手 第 1 団
		中 谷 洋	小 牧 第 1 団
地区コミッショナー		小 林 弘 幸	春 日 井 第 8 団
地区副コミッショナー	BVS	石 川 圭 祐	江 南 第 1 団
	CS	中 谷 真 里	小 牧 第 1 団
	BS	古 木 啓 介	小 牧 第 1 団
		鈴 木 覚	春 日 井 第 5 団
	VS	水 谷 優 介	春 日 井 第 2 団
	RS	中 川 大 輔	北 名 古 屋 第 1 団
団担当コミッショナー		串 崎 武 志	春 日 井 第 1 0 団
		高 多 宣 彰	日 進 第 1 団
		内 田 志 郎	春 日 井 第 4 団
		佐 藤 慶 子	春 日 井 第 2 団
		椎 葉 育 美	江 南 第 3 団
		宮 下 彰 洋	犬 山 第 7 団

役 務		氏 名	所 属
組織・拡充委員会	委員長	石 原 昌 幸	江 南 第 3 団
	副委員長	渡 邊 誠	尾 張 旭 第 1 団
指導者養成委員会	委員長	岩 田 秀 雅	春 日 井 第 8 団
	副委員長	山 口 貴 美 江	春 日 井 第 10 団
		藤 井 孝 之	小 牧 第 2 団
スカウト進歩委員会	委員長	八 橋 隆	江 南 第 1 団
	副委員長	山 内 篤	春 日 井 第 10 団
行事・国際委員会	委員長	井 上 文 義	瀬 戸 第 1 団
	副委員長	桜 井 真 之 介	小 牧 第 1 団
		中 田 洋 二	北 名 古 屋 第 1 団
総務委員会	委員長	大 谷 茂	北 名 古 屋 第 1 団
	副委員長	田 口 澄 雄	瀬 戸 第 6 団
事務局	事務長	岩 花 竜 章	清 須 第 1 団
	副事務長	中 村 里 美	北 名 古 屋 第 2 団
	会計係	志 水 幹	日 進 第 2 団
ローバース代表委員		松 原 千 怜	瀬 戸 第 6 団
監事		境 正 人	犬 山 第 5 団
		河 合 正 治	大 口 第 1 団

尾張東地区トレーニングチームメンバー

			NO	役 務	氏 名	所 属 団
地区トレーニングチーム	県連トレーニングチーム	日本連盟	1	リーダートレーナー	中 村 倫 之	小 牧 第 1 団
			2	リーダートレーナー	林 由 美 子	尾 張 旭 第 1 団
			3	リーダートレーナー	中 谷 洋	小 牧 第 1 団
			1	副リーダートレーナー	森 裕 次	瀬 戸 第 6 団
			2	副リーダートレーナー	椎 葉 育 美	江 南 第 3 団
			3	副リーダートレーナー	中 村 友 一	北 名 古 屋 第 2 団
			4	副リーダートレーナー	中 谷 真 里	小 牧 第 1 団
			5	副リーダートレーナー	鈴 木 覚	春 日 井 第 5 団
			6	副リーダートレーナー	山 口 貴 美 江	春 日 井 第 1 0 団
		7	副リーダートレーナー	古 木 啓 介	小 牧 第 1 団	
		8	副リーダートレーナー	小 林 弘 幸	春 日 井 第 8 団	
		9	副リーダートレーナー	宮 下 彰 洋	犬 山 第 7 団	
		1	県チームスタッフ	水 谷 優 介	春 日 井 第 2 団	
		2	県チームスタッフ	植 木 治 雄	北 名 古 屋 第 1 団	
		3	県チームスタッフ	栗 本 雅 仁	小 牧 第 1 団	
		4	県チームスタッフ	古 川 秀 晴	犬 山 第 7 団	
		5	県チームスタッフ	石 川 圭 祐	江 南 第 1 団	
		6	県チームスタッフ	小 川 恭 平	瀬 戸 第 1 団	
		7	県チームスタッフ	中 川 大 輔	北 名 古 屋 第 1 団	
		地区チームチーフ	鈴 木 覚	春 日 井 第 5 団		
		地区チーム事務局	古 川 秀 晴	犬 山 第 7 団		
	1	地区チームスタッフ	中 村 里 美	北 名 古 屋 第 2 団		
	2	地区チームスタッフ	石 原 昌 幸	江 南 第 3 団		
	3	地区チームスタッフ	小 林 香 織	春 日 井 第 8 団		
	4	地区チームスタッフ	佐 藤 精	日 進 第 2 団		
		地区チームアドバイザー	岩 田 秀 雅	春 日 井 第 8 団		

※休務者は記載しておりません。

尾張東地区救急チームメンバー

No	役 務	氏 名	所 属 団
1	チーフ	片 谷 文	春 日 井 第 5 団
2	サブチーフ	続 木 雅 子	春 日 井 第 4 団
3	事務局	水 谷 優 介	春 日 井 第 2 団
4	チーム員	小 川 万 里 子	瀬 戸 第 6 団
5	チーム員	藤 井 孝 之	小 牧 第 2 団
6	チーム員	船 橋 菜 月	春 日 井 第 2 団
7	チーム員	松 原 彩 香	瀬 戸 第 1 団
8	アドバイザー	杉 本 京 子	犬 山 第 5 団
9	アドバイザー	小 林 泰 陸	春 日 井 第 4 団
10	アドバイザー	串 崎 武 志	春 日 井 第 10 団
11	アドバイザー	伊 佐 治 知 加 子	

尾張東地区WEB チームメンバー

No	役 務	氏 名	所 属 団
1	スタッフ	椎 葉 浩 志	江 南 第 3 団
2	スタッフ	石 原 昌 幸	江 南 第 3 団



令和3年度 ポーイスカウト愛知連盟 尾張東地区 活動報告

組織拡充委員会 活動報告

令和3年度 ポーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		組織拡充委員会 活動内容	年度総括まとめ
番号	小項目		(令和3年4月～令和4年3月)
目(1)-①	組織拡充に関する各団の課題を吸い上げ、運営委員会・地区委員会等で協議依頼します。	・各団からの問い合わせに対応しました。	・地区で協議するまでの課題吸い上げには至らず、より良い取り組み方を検討して行きたいと考えます。
目(1)-①	地区誌はやぶさの紙面を見直し、年間計画を立て原稿依頼します。スカウトあいち原稿も計画的に依頼します。	・地区役員からの記事を先頭ページに配置するなど、紙面構成の改革に取り組みました。	・はやぶさは、緊急事態宣言などの影響がありましたが、10月・12月の2回発行できました。継続して計画的な原稿依頼・発行に取り組みます。
目(1)-①	組織拡充または広報に関する講演会・講習会を開催します。	・運営委員会にて、開催方法や内容を検討しました。	・今年度はコロナ感染対策のため講演会は見合わせました。対面でない方法を検討しています。
目(1)-①	各団のPRのため、日連HP団情報・団HP・SNS・動画などの活用を促進します。	・運営委員会にて、日連団情報ページの更新手順の説明など実施しました。	・日連団情報ページへの画像・紹介文掲載は5⇒7個団に増加しました。HP・SNS・動画の活用が不足していると感じており、継続して促進して行きます。
重(1)-②	文科省委託事業の案内とともに参加促進を図ります。事業成果についても確認します。	・ワクワク自然体験あそびの案内など速やかな配付に努めました。	・ワクワク自然体験あそびは14個団の申込みを頂き、13個団開催できました。加盟登録につながることを期待します。

スカウト進歩委員会 活動報告

令和3年度 ポーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		スカウト進歩委員会 活動内容	年度総括まとめ
番号	小項目		(令和3年4月～令和4年3月)
目(1)-①	隊活動活性化の為に、隊長認定技能章の支援、コロナ禍有効プログラムの情報交換をする。	定例委員会の中で情報交換会を実施し、各団の状況有効なプログラム等の情報交換をしました	11月に隊長認定技能章（野外炊事、野営章）の講習会を実施し取得の支援をしました。
目(2)-①	各団より1名以上の菊スカウト章取得者を出すよう支援する。	事前に面接日を調整し、申請、即面接が出来るように調整しました。	菊スカウト章19名と昨年（23名）より減りました。
目(2)-①	各級別目標を管理し月ごとの団面接報告に基づき進捗を確認目標達成を目指します。	月ごとに面接報告を連絡受け目標管理をしました。	隼スカウト章の取得を増えましたが、ボーイ部門の進級は菊スカウト章はじめ大幅に減りました。
目(2)-③	地区より10名の隼スカウト章取得者を出します。		9名が取得出来ました。うち5名が高校2年です。
目(2)-②	カブ完修の調査で早期完修を促し、小枝章5個取得の集計をし木の葉章の取得を増やします。	月ごとに面接報告を連絡受け目標管理をしました	カブの完修が大幅に遅れ3月までに終わらないスカウトが多数出る状況です。
重(3)-③	運営委員会の中で情報交換会を実施し各団の問題点を出し解決の方策を探ります。	情報交換会の中で問題点を抽出し、検討しました。	成果となるものが出ませんでした。

指導者養成委員会 活動報告

令和3年度 ポーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		指導者養成委員会 活動内容	年度総括まとめ
番号	小項目		(令和3年4月～令和4年3月)
目(1)-①	スカウトの中途退団を阻止するため、指導者の資質（人間力）の向上を支援します。具体的な施策としては、全部門RTへ参席し参加者の自己研修に寄与します。	CS・BS・VSのRTに参席し定型外訓練の概要を説明し自己研鑽の必要性和訓練への参加を促しました。	RTへの参席時間は、定型外訓練への参加を募る程度に留まり参加指導者の意見を聞くまでには至らなかった。各担当副コミッショナーには指導者の訓練ニーズを集約して頂き、地区コミッショナーに報告をお願いします。
目(1)-③	SCOUTSforSDGs 目標達成に必要な、学習環境の提供・整備を行います。	定型外訓練において積極的に、「体験型」「参加型」の学習提供を行いました。（4-7）	「地球志民(グローバル・シチズンシップ)」の育成に際し、「体験型」「参加型」「多様性(多文化)型」の学習の場の提供を充実していきます。
目(3)-①	指導者訓練を実効性の在るものとするため、訓練の提供に留まらず、研修訓練後のフォローを行います。具体的な施策として、全団全指導者の研修歴を確認し、コミッショナーとの共同の上、次の研修参加を促します。	全団指導者研修歴の確認および本年度の定型訓練、定型外訓練への参加状況を各団別に見える化をして、自団の指導者への訓練、研修参加を促しました。	定型訓練、定型外訓練の開催がコロナ禍の緊急事態宣言で中止となり、すべての訓練の提供が出来ませんでした。定型外訓練への参加状況が非常に悪く、委員会でその要因を抽出し地区コミッショナー、TTチーフに提言をしました。
目(3)-②	上記活動内容を実行することで、インサービス・サポートに繋がります。	インサービス・サポートの活用を促し、地区も指導者のフォローが出来る体制が有ることを伝えました。	地区へのインサービス・サポートの要望が各団から有りませんでした。指導者養成委員は団内指導者とのコミュニケーションを図りインサービス・サポートの活用をして頂きたいと考えています。
目(3)-③	RTまたTTからの訓練要望を受け、効果的に訓練を展開できる「環境」の提供をいたします。	地区コミッショナー、TTチーフと参加しやすい訓練内容および、楽しい訓練方法について協議をして進行しています。	地区コミッショナー、TTチーフと参加しやすい訓練内容および楽しい訓練方法について協議をして効果的に訓練が出来る運営環境を提供していきます。

行事・国際委員会 活動報告

令和3年度 ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		行事・国際委員会 活動内容	年度総括まとめ
番号	小項目		(令和3年4月～令和4年3月)
目(1)-①	団の活動が楽しく「活動に参加しよう」の意識が持てる団の環境を作ります。この為に各団の活動情報を委員会で報告し、利点を自団内で取り入れ、活気ある活動が出来るようにします。	各団が実施する募集活動等の場に近隣団の行事国際委員も参加し、活動の良い点を自団活動へ生かします。活動結果を委員会で報告します。	目標、ほぼ達成 コロナ禍のため活動訪問は中止し、「わくわく自然体験あそび事業」活動結果を12月の委員会で報告し、今後の自団活動に生かしていきます。
重-(1)	日本連盟・愛知連盟が主催する海外・国内派遣事業等を各団へ広報し参加に向けた支援を行います。	日連・県連が主催する派遣事業を各団へ広報し参加者を募り、参加希望者の参加申請書を取り纏め県連へ提出参加決定後、委員会で報告紹介します。	目標達成 VS/RSを参加対象とした事業への参加を案内し、それぞれの事業への参加希望申請書を県連へ報告し、希望事業へ参加でき、行事国際委員会でも報告しました。
重(1)-③	SCOUTS for SDGs 目標達成に寄与する活動を支援します。 (「緑の募金」「スカウトの日活動」地区内全団の参加を目指します)	地区内21個団全てが「緑の募金」「スカウトの日活動」に参加を促し、活動結果集計表を作成・開示し全団の活動が見えるようにし、活動状況を委員会で報告します。	目標達成 緑の募金活動はコロナ禍の為、対面式活動が出来なくやむなく中止した団もありましたが、12個団が活動参加しました。 スカウトの日活動は、コロナ禍が一旦落ち着いた時期に活動され、12月末時点で20個団が活動しました。
重(2)-④	尾張ブロック野営大会の開催に向けた支援と参加者への対応を行います。	大会開催要項・参加申請書を団内展開し参加希望者を実行委員会へ申請。事前訓練時の活動支援を行います。	目標達成 コロナ禍の為、参加辞退した団、濃厚接触者として参加辞退した個人もありましたが、18個団よりスカウト137名、RS/指導者75名、計212名派遣でき、盛況に開催運営できました。
重(3)-③	運営委員会活動の活性化と充実を図るため ①他の運営委員会やRTと協議し活性化要望事項を委員会活動に反映します。 ②コミGの団訪問や隊訪問に参加し、課題に対し対応検討します。	他の運営委員会やRTに委員を派遣し活動の良い点や課題点を委員会で報告・協議し当委員会の資質向上を図ります。	目標未達 他の運営委員会やRT開催日が行事国際委員会開催日と同じ日で派遣が出来なく、目標の設定時の検討が不足していました。
重(4)-①	危機管理体制の充実強化 野舎営届・県外旅行申請書の提出管理と集会実施計画書の作成と提出を実施します。	団・隊の活動を確認し必要書類を取りまとめ地区へ提出、提出資料は地区コミの確認を得たのち、県連へ提出します。 (県外旅行申請書は除く) 各団よりの提出状況を一覧表に集計し、行事国際委員会/地区委員会で報告します。	目標達成 コロナ感染予防対策を盛り込んだ実施計画書の添付を必須とし、提出資料を地区コミに送付し、認可後、県連へ送付処理した。記載事項不備時は改善も依頼しました。各団(隊)の提出状況を一覧表に纏め、行事国際委員会や地区委員会で報告しました。

総務委員会 活動報告

令和3年度 ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		総務委員会 活動内容	年度総括まとめ
番号	小項目		(令和3年4月～令和4年3月)
目(1)-①	1. 各団の体験募集・新規募集活動計画等の情報収集と後方支援を積極的に行ないます。 2. 「全国防災キャラバン」開催します。(春日井)	委員会開催時に、体験募集・わくわく自然体験あそびなどの開催情報を入手しました。 11月7日イオン春日井ショッピングセンターで開催しました。	体験募集・わくわく自然体験あそびなどの開催情報は入手しましたが、後方支援まではできませんでした。 コミショナーグループ・春日井地区各団の協力により、開催できました。
目(3)-③	「セーフ・フロム・ハームセミナー」等 各種講習会案内と参加促進をします。	隊指導者対象「S f Hセミナー」を尾張ブロック各地区開催。また、RS対象「S f Hセミナー」は地区ローバース中心に参加促進しました。	隊指導者対象「S f Hセミナー」の参加者は全体で52名。対象者の約半数のため次年度も継続して開催予定しています。RS対象「S f Hセミナー」は6名の参加者でした。
重(3)-③	運営委員会の充実を進めます。インシデント報告(ヒヤリハット報告)を継続してゆきます。	インシデント報告3件ありました。	情報を共有し注意喚起を今後も進めてゆきます。
重-(4)	危機管理体制の充実強化します。	各団(各隊)の危機管理体制及び連絡網の整備を促進しました。	各団(各隊)の危機管理体制及び連絡網の整備を促進します。
重(4)-②	1. 防災ボランティアコーディネーター養成講座参加者3名以上を目標とします。 2. 防災士の養成をします。	開催要項展開しました。 資料等の入手しましたが、新型コロナウイルス感染防止対策で講習会等が変更になり参加者促進できませんでした。	隊指導者 1名、RS 2名 参加をしました。 新型コロナウイルス感染防止対策等で、講習会がリモート開催などで受験資格が得られないなど混乱がありました。次年度も情報収集と情報展開し防災士の育成をします。

地区ローバース 活動報告

令和3年度 ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		地区ローバース 活動内容	年度総括まとめ
番号	小項目		(令和3年4月～令和4年3月)
重(1)	定例会の開催を通じ、日本連盟・愛知連盟主催事業の情報交換を行い、各事業の参加率を高めることで、活動を活発化させるとともに中途退団の抑制に繋がります。	4月、6月、8月、10月、12月、2月に定例会（年間計6回）を実施し、各種行事の案内・活動報告を実施しました。	定例会を年6回の開催に変更しました。情報共有の機会が増え、多くの対象者への呼びかけを行うことができました。また事業の案内だけでなく、活動報告を行い各事業の魅力伝えることで、次年度以降の各事業への参加者増加にも取り組みました。
目(2)- ④ 重(2)- ④	尾張ブロック野営大会等の地区内行事への積極支援などを通じ、全部門のスカウト、指導者およびスカウトの保護者へ「カッコいいローバースカウト」の姿を見せることで、RSへの憧れをもってもらい、上進と活動への意欲を高め、活動の活性化と中途退団防止へとつなげていきます。	尾張ブロックキャンポリーでは参加隊指導者として5名、本部スタッフとして4名が参加し、ボーイ・ベンチャー年代のスカウトと関わる機会となりました。 あいち木づかいフェスタ2021では10名が奉仕スタッフとして参加し、天候が悪く来場者は少なかったものの、その場に来た子供と保護者へは積極的に関わることができました。	定例会の参加者が10～15人程度、その中の多くのスカウトが地区行事へ奉仕スタッフとして参加していました。様々な場面でローバースカウトの存在をアピールすることはできたものの、地区ローバースとして「他部門への関わり方」のような共通理解が図れたわけではありません。より多くの他部門のスカウトや保護者に「カッコいいローバースカウト」を感じてもらうためにも、地区ローバースでも意識作りの機会を設ける必要があります。
重(3)	スカウト技能とプログラム展開能力を高める研修を実施することで、RS以下の各隊に対する奉仕能力の向上につなげます。	定例会において、他部門のスカウトと関わる中で活かせるスキルや、奉仕活動を具体的にプランニングする事などを、プログラムのテーマとして扱いました。	定例会で他部門のスカウトに関するテーマを扱い、そのプログラムの中で意見交換の時間も設けていた。具体的なスキル向上に留まらず、参加者からは「新たな発見があった」という声も上がり、指導者としての意識向上にも寄与できました。
重(4)	セーフ・フロム・ハームに対する理解を深め実践できるように取り組みます。防災キャラバンの運営・防災ボランティアコーディネーター養成講座の受講を通して、防災に対する理解を深めます。	セーフ・フロム・ハームについて理解を深める取組みは実施しなかったが、県連主催のローバースカウト向けセーフフロムハームセミナーに6名が参加しました。防災キャラバンでは10名が奉仕スタッフとして当日参加し、防災ボランティアコーディネーター養成講座は2名が受講しました。	県連主催のローバースカウト向けセーフ・フロム・ハームセミナー、防災キャラバン奉仕および防災ボランティアコーディネーター養成講座の受講を通じて、セーフ・フロム・ハームや防災についての理解を深めることができた。しかし理解が深まったのは参加したスカウトのみで、組織としての理解度向上には繋がっていませんでした。

コミッショナー 活動報告

令和3年度 ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		地区コミッショナーグループ 活動内容	年度総括まとめ
番号	小項目		(令和3年4月～令和4年3月)
コ ミ ッ シ ョ ナ ー	RTにおいて各部門毎の基本的活動要件等を見直し、年代に求められる活動方法を研修・研究することでプログラムの質の向上を図ります。	副コミッショナーに各部門の問題を整理し、問題解決のための場となるように指導を行いました。	RTが研修の場として活用されるように、各部門が抱える問題について取り組みました。コロナ禍のため対面によりRTが開催できない場合は中止をせず、オンラインでの会議とするなどし、オンライン会議の機能を活用するなどして、相互研修を行えたことは評価できます。ただ、行事前などは連絡会になりがちなのは反省すべき点でありました。
	定形外訓練の展開方法を見直し、訓練効果が高く発揮され、自隊活動プログラム等の質の向上に直接寄与する訓練になるように取り組みます。。	新型コロナウイルスによる緊急事態宣言等のため、当初予定していた訓練の多くが中止となりました。いくつかの訓練を実施し、展開の方法やプログラム等などの改善につながるための取り組みをおこないました。	新型コロナウイルスの影響も2年目であり、地区定形外訓練が思うように実施できず、チーム員のモチベーションが低下していることを懸念している。ここ数年の課題としているチーム員の指導能力技能の向上についての取り組みは、あまり成果が出ていない状況であり、このことが定形外訓練の参加率低下につながっている一因ではないかと考えており、引き続き木次年度の取り組み課題としました。
	WBSC、WB実修所、ウッドクラフトコース、団委員研修所等の定型訓練への参加を促進し、参加者の事後のフォローを丁寧に行い、団、隊での活動が円滑に進むように支援します。	定形外訓練への参加者が想定以上に少ない年であった。参加者には個別支援を実施しました。	定型訓練等への支援については概ね予定通りでした。ただし、研修所、実修所、WCC、団委員実修所への参加促進はほとんど出来ていない状況です。コロナ禍である事は考慮するが、各隊指導者の研修履歴を見ている限り、コロナ禍だけが原因でなく、誰のために研修所等に参加するのかを忘れていた指導者が多い事が非常に残念です。
	新しい生活様式における、SFHへの取り組みについて研修を行います。。	地区内隊指導者対象のSFHセミナーを実施。SFH対象案件への対応を実施しました。	次年度も同様に取り組み、セミナー等を利用して、再発防止等に取り組みます。
	ブロックキャンポリー開催へ向けた支援と現地でのサービス支援および非加盟員向けのサマーキャンプ開催（文部科学省委託事業）の実施により、活動のPRによる認知度の向上や、BS活動の有効性を示すことで、加盟員増加に結びつけることを目指します。	地区キャンポリー開催のための支援を実施しました。サマーキャンプについては、余力がないため断念しました。防災キャラバン等を利用し、BSへのPRを実施した。	8月にブロックキャンポリーを開催出来たことは、開催のためのノウハウ、スカウトのモチベーションの向上などの成果がみられ、開催した意義を見出すことができました。ただし、個々の取り組みに対する姿勢や役割に対する責務遂行等について、改善が必要と感じました。サマーキャンプについては、本大会の対応で余裕がなく、年度初めに取りやめる決断をしたのは残念でした。
	地区救急チームの専門化を推進し、教育分野、奉仕分野における専門的知識の活用を行う。WFAへの積極的参加を促します。	WFAへ1名参加しました。	救急チームについては専門職にて再編成し、奉仕をお願いしました。コロナ禍のため非常に困難な中で奉仕を遂行いただき、感謝します。また、チーム内でどのような講習が良いか、ブロック内の救急チームとの連携を模索するなど、新しいことにチャレンジする姿は評価できます。

B V S	ラウンドテーブルの研修において、ワクワクドキドキするプログラムの立案や、SDGsについての理解が深められるよう支援します。	8回のラウンドテーブルの中でプログラムについての研究を行ってきました。	ラウンドテーブルの中で隊長さんたちのニーズを聞いて、プログラムについて研究を行ってきました。また、隊訪問を行った様子を写真やコメントをつけながら報告することで、プログラム作成のヒントになったと思います。
	スカウト数5名以下の隊訪問を実施し、各団の状況に応じた支援を行います。	3個隊に隊訪問を実施しました。	新型コロナウイルスの影響で隊集会在中止になってしまい、計画していたよりは少ない隊訪問の実施になってしまいました。今後も少人数隊を中心に引き続き隊訪問を行って行きます。
	2022年度の新制度施行(1年引き下げ)に向けて、年長年代の募集を兼ねたBVSラリーを3月に実施します。	新制度施行は見送りになりました。BVSラリーはコロナ禍のため、実施することはできませんでした。	今年度BVSラリーは行えませんでした。どの隊長さんもBVS年代の登録者の減少については危機感を持っていると感じる。募集のやり方と今後の隊集会のプログラムについてRTの中で研究してきた。今後も募集のあり方とともに、ラリーの実施に向けて取り組んでいきます。
C S	RTにおいて、中途退団防止、加盟員増加につながる楽しいプログラムが展開できるように、組活動の意義を見直すなど正しいプログラムプロセスの理解につながる研修、研究を行います	ラウンドテーブルにて、各隊の実施プログラムを情報共有し、活動のヒントの提供と共に現状把握に努めました。	新型コロナの影響で、ラウンドテーブルを対面で行うことが少なく、研修、研究を行うには厳しい環境となりました。コロナ禍のオンラインを含む集会の展開方法、カブブック履修でプログラム展開が難しい内容、BS上進率を良くするための改善点など話し合いを中心にプログラム内容の充実を図りました。次年度は、オンラインでの実施も考慮し、研修、研究に取り組んでいきます。
	指導者の学びの場として、スカウトの交流の場として、他団との合同集会や募集活動の見学を企画し、実施します。	募集活動の見学は計画に至らず、各団で実施した「ワクワク自然体験あそび」などの報告をグループで共有しました。合同集会については一部の隊で行いました。	年度初めより対面でのラウンドテーブルができず、他隊との活動調整をする機会が少なかったこともあり、計画的な合同集会の実施には至りませんでした。また、新型コロナの影響で募集活動が秋に集中し、見学の計画も難しい状況でした。次年度は早めに合同集会などを計画し、指導者の交流の場、スカウトの交流の場を増やし、スカウト活動の充実にも努めます。
	疑問や問題点を共有し気軽に相談できる環境を作るため、RT(年8回)、隊訪問(4隊以上)、地区行事、地区定形外訓練などを活用し、各隊相互のコミュニケーションを強化します。	ラウンドテーブルはオンラインを含め予定通り8回実施し、コミュニケーションを図りました。隊訪問の実施には至らず、尾張ブロックでの行事、地区定形外訓練は新型コロナの影響で中止となり活用できませんでした。	実施できなかった行事、研修会や2回しか対面で行うことのできなかったラウンドテーブルと交流の場が少なかったため、オンラインのラウンドテーブルでも話し合う時間を取り入れ交流の場としました。次年度は、カブラリー、地区定形外訓練、隊訪問などを活用し、ラウンドテーブルへの参加率も上げ、引き続き各隊相互のコミュニケーションの強化に努めます。
B S	尾張ブロックキャンポリーへの参加に向けて、運営に協力するとともに、隊指導者を支援します。キャンポリーを通じて、野外活動と班制度を生かすことでスカウトが「ワクワク・ドキドキ」「楽しさ」を感じることができること、それがスカウトの成長に好影響を与え、中途退団防止にもつながることを指導者が体験・体感し、自隊の活動につながる「気づき」を得られる場とします。	副コミ2名が大会実行委員として参画し、運営上の必要な事項について他地区との調整等を行いました。また、地区内ではラウンドテーブルを通じて、長期野営で起こりうるトラブルへの対処法について研究を行いました(7月)。大会中は、各隊を訪問し、現場での課題等に対して支援を行いました。	大会における新型コロナ感染者が発生しなかったことは、参加各スカウト、指導者、保護者およびご家族の皆さんの協力があってこそその成果だと感じており、また、このような感染対策を行えば、コロナ禍においても長期野営は可能である、ということを実証できたことは、大きな意味があったと感じています。大会後の部門内評価でも、スカウトたちの生き生きとした顔が見えたり、達成感や成長の機会だったというコメントが多くあり、計画は達成できたと考えます。今後はスカウトたちがこのモチベーションを長く維持し、活動を楽しめるようにすることが、指導者の重要な役割と認識しています。
	ブロックキャンポリーの事前訓練の実施状況を訪問を含めて把握することを通じて、個々の隊状況を分析・把握するとともに、隊指導者とのよりよいコミュニケーションをはかり、当地区BS部門および各隊に必要な支援を明確にし、実施します。少人数隊での活動の充実についても研究します。	大会前の隊訪問は、新型コロナの影響もあり、実現できませんでした。大会期間中は毎日1回は各隊を訪問し、隊運営の状況の把握、隊運営上の課題に対する支援を個別に行いました。	各編成隊においては、隊長の方針のもと、工夫を凝らして隊運営がされていましたが、副コミッショナーとしては、指導者とスカウトの距離感、スカウトキャンプに適した装備・資材、班の活かし方等の点において、差があることを感じました。また、少人数隊における、複数班体制・標準隊の経験の場とする予定でしたが、新型コロナの影響もあり、1隊あたり15名程度の隊も複数発生しましたが、それでも複数班があることの意味については、十分確認が出来たと感じています。
	基本をしっかりとして理解したうえでスカウトによりよい活動の提供が出来るよう、BS部門指導者のウッドバッジ研修所、実修所等定型訓練への参加、および地区内定形外訓練への参加を促し、指導者の育成・指導スキルの底上げに努めます。	ラウンドテーブルで「長期野営でのトラブル対処法」(7月)、「隊運営をスカウト主体にするためには？」(10月)に取り組み、11月には野外炊事章・野営章講習会の運営を通じた指導技能研究を行いました。定型訓練・定型外訓練への参加はコロナ禍での中止もあり、参加者はほとんどありませんでした。	キャンポリーの実施を中心に置き、その前後でキャンポリーを利用した研究テーマを設けたことは、隊指導者に課題を「自分事」としてとらえてもらえる機会となり、よかったと考えます。技能面では、新しい取り組みとしてスカウト進歩委員会とともに、技能章講習会を行えたことは、隊指導者にとっても他の指導者の指導方法を見聞きする機会となり、有意義でした。これは次年度も継続します。活動の主体がスカウトになっているかどうかについては、スカウト運動の根幹にかかわります。今後も継続して活動を振り返る機会を設けていくとともに、それを学ぶ場として、研修所・実修所への参加を強く促します。
	すべての隊から菊スカウトが誕生し、またVS上進前に菊章取得ができるよう研究と実践を行います。また、VS部門との合同ラウンドテーブルを定期的開催し、進歩制度上の協働およびジュニアリーダーとしての連携、上級部門の姿をスカウトたちに見せる場の工夫等にも取り組みます。	VS部門との合同ラウンドテーブルを4回実施し、VS・BS部門間の連携を強化しました。菊スカウトについては、1/3程度の隊からしか今年度は誕生していません。	VS部門との合同ラウンドテーブルにより、BS・VS間の課題の共有や、共通の話題を持つ機会を持てたことは良い取り組みでした。次年度はCS部門とも何回か機会を持ちたいと考えています。菊章を取得してVSに上進させることはBS部門としては十分に認識する必要がありますが、一方で「1級進級の壁」があることも分かってきました。次年度は1級章をどのように(楽しみながら)取得させるか、という点に重点を置いて取り組みます。

V S	<p>ラウンドテーブルの研修において、隼・富士章の各進歩課目修了に向けた、各項目の取り組みレベルや具体的プログラム・活動について研究し、スカウトの進級に結びつくよう隊長を支援します。</p> <p>また、進級状況の把握や申請書類の作成がスムーズ、かつ効率的に行えるよう、スカウト進歩委員会やボーイ部門と協働して個人記録や進歩記録の書式の見直しを行います。</p>	<p>ラウンドテーブル内で「隼章課目を考えよう！」を実施。</p> <p>隼スカウト章8名、富士スカウト章1名の進級 個人記録や進歩記録の提案まではできたが、見直しまではできず。</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で、今年度のラウンドテーブルもオンライン開催が多くなった。だいぶオンライン会議にもなれていただき、不自由なくできるようになっていると感じた。今年度は「隼章課目の考えよう！」というテーマのもと、グループワークを行い、各隊長にそれぞれの課目に関してグループワークで考えてもらった。色々な意見がでて、どの課目で困っているのか知ることができた。</p> <p>思うように活動ができない中、進級に関しては評価できる。しかし、隼スカウト章、富士スカウト章共に特定の団からしか申請がないのも事実である。ラウンドテーブルに出てこない隊長や、進級に結びついていない段に対しての支援策を検討する必要がある。</p>
	<p>個別の隊訪問と進歩状況分析を踏まえ、個々の隊や隊長に対する支援を強化し、各隊でのベンチャー活動活性化に努めます。</p>	<p>隊訪問は実施できず。</p> <p>進級に対する支援は個々の隊長に対して実施</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で、隊訪問はできなかった。隊会議や隊活動に関して、もう少し踏み込んで調査をすべきだったと反省している。隊長から進級レポートの提出を受けた際には、個別に指導、支援をしているが、やはり、速い段階からの介入をしていく必要があるように感じた。</p>
	<p>尾張ブロック野営大会への参加や地区ベンチャー活動を通じて、地区内スカウト同士が継続して交流を持てる場づくりを戦略的に実行し、「次につながる仲間づくり」を支援します。</p>	<p>尾張ブロック野営大会の参加（参加隊、大会奉仕併せて26名） VS&amp;RSの集い開催（15人）</p>	<p>本来であれば、5月の野営管理章講習会をスタートとして、地区のベンチャースカウトの活動の場を検討していたが、新型コロナウイルスの影響で、技能章講習会も中止になってしまった。尾張ブロック野営大会やVS&amp;RSの集いを通して、ベンチャースカウト同士の交流も少しはできていると思う。次年度もベンチャースカウトの集まれる場を作り、更に地区のベンチャー活動を盛り上げていけるよう支援をしていく必要がある。</p>
	<p>ジュニアリーダーの活用等ボーイ部門との連携を強化し、ベンチャー部門の魅力を語る指導者を増やします。また、ローバー部門と協働して、ローバースカウトの見える化（地区ベンチャー活動へのローバースカウトの参画、技能章講習会へのローバースカウトの関与等）を行い、ローバースカウトとの接点を増やし、上進意欲の向上を図ります。</p>	<p>BS部門との合同ラウンドテーブル開催（年3回） VS&amp;RSの集いの開催</p>	<p>進級課目が一貫となり、ボーイ部門とベンチャー部門の連携が重要になることを見据えて、ラウンドテーブルも合同で実施した。ジュニアリーダーをいかに活用していくか今後も検討していく必要があるが、まずは隊長同士の共通認識が必要なことは理解していただけたと思う。</p> <p>ローバー部門との接点は、地区ローバースに依頼をし、VS&amp;RSの集いを開催してもらった。時期的に上進の対象の高校3年生の参加が難しかったが、次年度以降に向けて上進意欲の向上にはつながっていると思う。継続していくことで、いい流れを作れるように感じた。</p>
R S	<p>VS部門等他部門との連携（地区ベンチャー活動へのローバースカウトの参画、技能章講習会へのローバースカウトの関与等）を図り、ローバースカウトが後輩スカウトの前で活躍する機会を設けることで、VS以下の年代の上進意欲を高め、中途退団を抑制します。</p>	<p>VS部門と協業のうえ、12/19 ベンチャー&amp;ローバーの集いを開催し、ベンチャースカウトとローバースカウトがともに活動をする機会を設けることができました。</p>	<p>12月にVS部門と連携して「ベンチャー&amp;ローバーの集い」を開催し、ベンチャースカウトの前でローバースカウトが活躍する姿を見せる機会を作ることができました。実施時期の都合上、高3スカウトの参加は無かったものため、ただちにRS上進率の結果に反映されるものではないものの、参加者からは好評だったため、今後も継続的にこのような機会を持っていきたいと考えています。</p> <p>一方で、年始に考えていた技能章講習会などへのローバースカウトの参画までは至ることが出来なかった。次年度以降の課題として取り組んでいきます。</p>
	<p>隊長・地区ローバースを通じて、尾張ブロック野営大会等の行事への支援参加を促進します。</p>	<p>RT・地区ローバースを通じて地区行事へのローバースカウトの参加を勧奨。</p>	<p>RTおよび地区ローバース定例会等での告知を行い、尾張ブロックキャンポリー・あいち木づかいフェスタ等の地区行事への参加募集を行った。</p>
	<p>ローバースカウトのボーイスカウト講習会の受講を促すようように隊長・地区ローバースを通じて働きかけることで、将来の指導者の育成に繋がります。</p>	<p>RT・地区ローバースを通じてローバースカウト宛のボーイスカウト講習会への参加を勧奨。</p>	<p>次世代の指導者育成につなげるため、RTや地区ローバースを通じて、ボーイスカウト講習会への参加勧奨を行った。</p> <p>一方で、地区内ボーイスカウト講習会について、9月はコロナ禍のため中止となり、3月は県行事との日程重複があるため、思うような成果を挙げられていないのが現状である。</p>
	<p>RTにおいて、セーフフロムハームやローバー活動に関する情報提供・研修を実施します。</p> <p>各隊指導者がオンラインを活用した活動に取り組めるよう、支援を行います。</p>	<p>年間4回（4/10、6/13、10/17、2/27）オンラインにてRTを開催し、ローバースカウトハンドブックを題材として、ローバー活動に関する研修・情報提供を実施。</p> <p>あわせて、下期は隊長あて地区ローバース定例会の参席も依頼し、ローバー活動の可視化を図った。</p>	<p>RT出席率を向上すべく、各隊長にアンケートをとった結果、多くの隊長からオンライン化要望があったため、今年度はすべての回においてZOOMでの開催としたが、依然として出席率は低水準が続いている。</p> <p>題材として取り上げたローバースカウトハンドブックについても、理解を深めていくためには今後も継続的に読み合わせ・研究を行っていく必要があると感じている。</p> <p>一方、下期に実施した地区ローバース定例会への隊長参席は各団指導者に対し、自団のスカウトの活躍の様子を見ていただく機会とすることができたため、次年度も継続的に取り組んでいく。</p> <p>また、オンライン会議を恒常的に実施しているため、オンラインを活用した活動の幅も広がったものと思料する。</p>
<p>隊長・地区ローバースを通じて、防災ボランティア・コーディネーター養成講座への参加を促進します。あわせて、防災キャラバンへの支援を行います。</p>	<p>RT・地区ローバースを通じて防災ボランティア・コーディネーター養成講座・防災キャラバンへのローバースカウトの参加を勧奨しました。</p> <p>10/24 防災ボランティアコーディネーター養成講座に2名受講しました。</p> <p>11/7 防災キャラバンに10名奉仕しました。</p>	<p>今年度も防災ボランティア・コーディネーター養成講座に地区ローバースから2名が参加し、災害時対応についての理解を深めました。</p> <p>また、防災キャラバンにも10名近くのローバースカウトが参加し、地区行事への支援を行うことができました。</p>	
<p>「スカウト数増加施策」策定とキックオフ支援：4～5月全国</p> <p>文科省事業を含む募集活動計画の確認と必要な支援の手配：5月以降全国</p> <p>スカウト数カテゴリーD(ランク1)の団の活動に参加：5月以降6個団</p> <p>募集活動の見学による効果的な募集活動の調査：随時情報による</p> <p>サミット6に向けて「ボーイスカウトの適応課題」の準備</p>	<p>全国のスカウト数増加に向けての計画支援と団運営のモチベーションアップを行うことが出来ました。毎月10日に報告を頂く様提案実施しました。</p> <p>募集活動の啓蒙、支援を行いました。</p> <p>団訪問を行い、モチベーションアップと活動再開時に向けて準備を行うよう提案しました。</p> <p>体験集会の見学、訪問を行いました。報告を収集分析しました。</p> <p>団から毎月の活動報告をお願いしました。状況を分析し、サミット6を21ヶ団参加で開催しました。団運営のアップに繋がるよう支援をしました。</p>	<p>コロナ禍による団運営のモチベーション低下団を支援し、アップするよう支援しました。</p> <p>全国で募集活動を開催するよう支援しましたが、地域の活動に頼って実施出来ない団が数団ありました。</p> <p>次年度は全国で実施出来るよう支援と団訪問を強化していきます。</p>	

# 尾張東地区 令和4年度地区運営方針（案）

## 1 運営方針

スカウト活動が円滑に進める事ができるように、各団それぞれの問題点を提起し、支援をより一層強化し野外活動を通じ、スカウト訓育・指導者養成に向け取り組み、社会に認められる組織に向けた取り組みを計画的に推進し団及び各委員会を積極的に支援します。

## 2 目標

### (1) スカウト数の増加に向けた具体的な施策の実施

- ①中途退団者をうわまわる新規入団者の獲得を目指す施策を支援します。
- ②野外活動を通じてスカウト運動の意義を理解展開する為の団支援をします。
- ③地区内における市制空白地域の解消、少人数団への支援をします。

### (2) スカウトが自分の成長と成果を実感し意欲を高める場所を提供し全ての団から、

「菊・隼・富士」取得者を目指します。

- ①BS・VS部門への高度な野外プログラム支援の充実をします。
- ②BVS・CS部門への年代別プログラム支援の充実をします。
- ③プログラム支援を充実させ中途退団の減少を目指します。

### (3) 指導者育成の充実

- ①スカウト教育法を再確認しウッドバッジ研修所・実修所の参加啓蒙をし、一貫支援（担当制）をし、指導者として資質向上を目指します。
- ②冒険的な野外活動や国際プログラムをスカウトへ適切に指導提供できるグローバルリーダーの育成をします。
- ③人間力向上を目指し定型外訓練への参加を促すだけでなく社会人としての資質を高め、魅力ある指導者の養成をします。

## 3 重点施策

### (1) 日本連盟・愛知連盟主催「海外派遣事業」・「国内事業」等に向けた支援

- ①スカウト・指導者および関連事業への支援態勢強化をします。
- ②自然体験活動事業への積極的な取り組みを支援します。
- ③SCOUTS for SDGs・アーストライブへの取り組み目標達成のために支援を推進します。

### (2) 「班（組）活動のできる」団に向けた対応を推進

- ①広域的な範囲で少人数団（隊）への他団との合同集会を推進します。
- ②団訪問等による団への支援を強化します。

### (3) 実効性のある指導者研修

- ①定型訓練・定型外訓練への参加を啓蒙し地区主催定型外訓練の充実をします。
- ②継続的にインサービス・サポートの推進をします。
- ③ラウンドテーブル・運営委員会を研修の場として活用します。
- ④活動に必要な外部団体資格取得を支援します。（WFA等）

### (4) 危機管理体制の充実強化

- ①セーフ・フロム・ハームに関わる対策を強化します。
- ②防災士・防災ボランティアコーディネーターの養成をします。

行事計画と役割

行事・会議	各組織の機能	メンバー	関連施策番号	活動内容	
1 運営委員会	1-1 組織・拡充 委員会	スカウト組織とその拡充及び広報に関する企画	委員長 副委員長 各団委員 19名	目(1)-①	組織拡充に関する各団の課題を吸い上げ、運営委員会・地区委員会等で協議依頼します。
				目(1)-①	地区誌はやぶさの紙面を見直し、年間計画を立て、原稿依頼します。スカウトあいち原稿も計画的に依頼します。
				目(1)-①	組織拡充または広報に関する講演会・講習会を開催します。
				目(1)-①	各団のPRのため、日連HP団情報・団HP・SNS・動画などの活用を促進します。
				目(1)-③	地区内における市制空白地域の解消、少人数団への支援する事業を展開します。
				重(1)-②	自然体験事業の案内とともに参加促進を図ります。事業成果についても確認します。
	1-2 スカウト進歩 委員会	スカウト各人の進歩状況の把握と進歩に向けたプログラム活動の企画	委員長 副委員長 各団委員 19名	目(1)-②	技能章講習会の開催及び隊長認定技能章取得の支援をしスカウトの技能向上を支援します。
				目(2)-①	各団より1名以上の菊スカウト章取得者を出すよう支援します。
				目(2)-①	地区より3名の富士スカウト章10名の隼スカウト章取得者を出すよう支援します。
				目(2)-①	各級別目標を管理し月ごとの団面接報告に基づき進捗を確認し目標達成を目指します。
				目(2)-②	カブ完修の調査で早期完修を促します。ビーバーでは小枝章5個取得の集計をし木の葉章の取得を増やします。
	重(3)-③	運営委員会の中で情報交換会を実施し各団の問題点を出し解決の方策を探ります。			
	1-3 指導者養成 委員会	指導者の育成を図るプログラム企画と場づくり	委員長 副委員長 2名 各団委員 18名	目(1)-①	スカウトの中途退団を阻止するため指導者の資質及び、指導力の向上を図るプログラムの運営にコミグループ、TTチームに積極的に関与し、スカウトに楽しいプログラムの展開ができ、信頼される指導者の養成に努めます。
				目(1)-②	野外活動を通じてスカウト運動の意義を理解展開する為に、指導者の野外活動スキル・知識及び指導者としての心構えを習得出来る各種定型外訓練を提供し、指導者の野外活動のレベルアップに繋がります。
				目(3)-①	定型訓練参加を促すため、団内の指導者養成計画を確認（作成）して該当者に対してコミグループ、TTチームと協同の上インサービス・サポートが出来る体制を強化し継続します。
目(3)-②				ウッドクラフトコース参加及び、活動に必要な外部団体資格（WFA等）取得をコミグループ、TTチームと共に支援し育成に努めます。	
目(3)-③				定型外訓練のみで無く人間力、資質向上に繋がる他団体、個人の研修及びセミナー等の情報を提供し積極的に参加することを促し、社会人としての資質アップに寄与します。	
1-4 行事・国際 委員会	野営及び国際行事関係に係る対応施策の企画	委員長 副委員長 2名 各団委員 18名	目(2)	当委員会が所轄する行事を各団へ広報し、参加者への支援を行います。	
			重(1)-①	18NSJ、18NSJ愛知大会、ジャンボリーサマー、25WSJ他への参加に向けた支援を行います。	
			重(1)-③	「緑の募金」「スカウトの日」活動に地区内全団の参加を目指します。	
			重(2)-②	近隣団の団行事活動を見学し、活動の利点を自団活動へ取入れ自団活動の向上に取り組みます。	
			重(3)-③	運営委員会の場で各団の活動状況や計画を報告し、自団活動へ活かします。	
			重(4)	野舎営届・県外旅行申請書の提出と野舎営時の集会実施計画書の提出を必須とし、提出状況を運営委員会や地区委員会で報告します。	
1-5 総務委員会	財政確保と行政対応等他の委員会に属さない事項への対応	委員長 副委員長 各団委員 19名	目(1)-①	各団の体験募集・新規募集活動計画等の情報収集と後方支援を行います。	
			目(3)-③	「セーフ・フロム・ハームセミナー」等各種講習会案内と参加促進をします。	
			重(3)-③	運営委員会を研修の場として活用します。（インシデント報告・安全対策）	
			重(4)	危機管理体制を充実します。	
			重(4)-②	防災士・防災ボランティアコーディネーターの養成支援をします。防災キャラバンを実施し、防災意識の向上に努めるとともに、加盟の増員につなげます。	
2 尾張東地区 ローバース Frontier	RS対象の活動および情報交換	地区内のRSおよび同年代の青年指導者	目(1)	他部門のスカウトや保護者へ「カッコいいローバースカウト」の姿を見せることで、ローバースカウトへの憧れをもってもらい、上進と活動への意欲を高め、活動の活性化と中途退団防止へと繋げていきます。そのために、団における他部門奉仕の推奨や、他部門のスカウトと関わる機会への積極的参加を促します。	
			重(1)	定例会でローバー対象事業の募集案内を行うだけでなく、参加者同士で事業の魅力を伝え合う機会を設けることで、関連事業の参加者数向上に努めます。また、ローバー年代におけるアーストライブの周知拡大に取り組みます。	
			重(4)	セーフ・フロム・ハームに対する理解を深め実践できるように取り組みます。防災ボランティアコーディネーター養成講座を受講し、受講者が他のスカウトに情報共有するための場を設けることで、地区ローバース全体で防災ボランティアコーディネーター養成に対する理解を深めます。	

3-1 地区コミッショナー	規定の遵守とスカウト教育の純正な推進のための教育及び指導	コミッショナー 地区トレーニングチーム 地区救急チーム	目(3)-③	新規地区トレーニングスタッフの獲得と育成を通し、有益な定形外訓練を継続して行う事を目指します。
			重(3)-④	WFAへの参加、外部専門課による研修の実施を通して、スカウトが安全、安心して活動できる環境を整えます。
			目(3)-①	スカウト教育法について各部門毎に再確認を行い、適切なプログラムがスカウトに提供できる指導者を育成します。
			目標(1)(2)(3)	スカウト、保護者共にスカウト活動に期待する活動を行う事で、スカウト活動に参加する喜びを感じさせることにより、中途退団の防止を図り、より活度活動的な環境を作り出すことで、スカウトの「仲間」を増やす事を目指し、状況に応じて施策を計画、実行します。
			重(2)①②	ジャンボリーサマーへの取り組みを活用し、少人数隊への支援を行い、地域における隊同士の連携を強め、活動規模の標準化を目指します。
			重(4)-②	SFHに関連する取り組みを実施します。
3-2 BVS部門		副コミッショナー 1名 個隊指導者	重(3)-②	RTをワクワクドキドキできる研修の場とし、出席率と研修内容を向上します。
			重(2)-②	昨年度に引き続き、隊訪問を実施し、各団の状況に応じた支援を行います。
3-3 CS部門		副コミッショナー 1名 個隊指導者	重(2)-①	エリア別に開催する、BVSラリーの支援を行います。
			重(3)-③	RTにおいて、中途退団防止、加盟員増加につながる楽しいプログラムが展開でき、正しいプログラムプロセスの理解につながる研修、研究を行います。
3-4 BS部門		副コミッショナー 2名 個隊指導者	重(2)-①	指導者の学びの場として、スカウトの交流の場として、他団との合同集会の実施を支援します。
			目(3)-①	RT(年8回)、隊訪問(2隊以上)、カブラリーなどを活用し、各隊相互のコミュニケーションを強化します。また、定型訓練、地区定形外訓練への参加につながる環境づくりに努めます。
			重(3)-②	RTにおいて、中途退団防止、加盟員増加につながる楽しいプログラムが展開でき、正しいプログラムプロセスの理解につながる研修、研究を行います。
			重(1)-①	18NSJへの参加に向けて、代表スカウトキャンプ、愛知大会へのスカウト・指導者の派遣について派遣者の支援を行うほか、地区内の全てのボーイスカウトが「ジャンボリーサマー」へ何かしらの形でかかわることができるよう、支援します。
3-5 VS部門		副コミッショナー 1名 個隊指導者	重(2)	隊訪問を行います。これにより個々の隊状況を分析・把握するとともに、当地区BS部門および各隊が抱える教育的課題に対してに必要な支援を明確にし、実施します。合同隊活動・地区行事の実施等を含めた、少人数隊での活動の充実についても研究します。
			目(3)重(3)	基本をしっかりと理解したうえでスカウトによりよい活動の提供が出来るよう、ラウンドテーブルでの研究を充実させます。また、BS部門指導者のウッドバッジ研修所、実修所等定型訓練への参加および地区内定形外訓練への参加を促します。
			目(2)重(3)	すべての隊から菊スカウトが誕生し、またVS上進前に菊章取得ができるよう研究と実践を行います。特に1級課目の進め方について、各細目のプログラム上での取り入れ方を実践的に研究し、各隊で確実に1級取得が進められるようにします。また、他部門との連携を図り、進歩制度上の協働およびジュニアリーダーとしての連携、上級部門の姿をスカウトたちに見せる場の工夫等にも取り組みます。
3-6 RS部門		副コミッショナー 1名 個隊指導者	目(2)-①	ラウンドテーブルの研修において、準・富士章の各進歩課目修了に向けた、各項目の取り組みレベルや具体的プログラム・活動について研究すると共に、個々の隊や隊長に対する支援を強化し、進級に結びつけます。
			重(1)-③	プログラムとして、SDGsやアーストライブに取り組めるよう研究、支援を行います。
			重(2)-①	地区スカウトフォーラムや18NSJ愛知大会(ジャンボリーサマー)等ベンチャースカウトの集まれる場を活用し、地区内スカウト同士の交流を深め、地区ベンチャースカウト活動の活性化へとつなげます。
4 団担当 コミッショナー	地区内の団の情報を、団委員長とのコミュニケーションを密にして収集し、団運営を支援する	副コミッショナー 6名	目(2)-③	ローバースカウトとの接点(地区ベンチャー活動へのローバースカウトの参画、技能章講習会へのローバースカウトの関与等)を増やし、ローバースカウトへの上進につなげる活動を行う。
			重(1)重(3)③重(4)①	年4回RTを開催し、次の事項に取組みます。 ・RCJ、ARCおよび地区ローバースに関する情報提供 ・セーフフロムホームに関する研修 ・ローバースカウトハンドブックを活用したローバーリングの理解促進 ・オンラインツールの活用支援および促進 ・団におけるローバースカウト年代の活用促進
			目(3)重(3)	RT・地区ローバースを通じて、ローバースカウトのボーイスカウト講習会の受講を促すことで、将来の指導者の育成に繋がります。
5 事務局	地区全般事務関連業務	事務長 副事務長 会計係	重(4)②	RT・地区ローバースを通じて、防災ボランティア・コーディネーター養成講座への参加を促進します。あわせて、防災キャラバンへの支援を行います。
			目(2)③	地区行事へのRSの参加促進およびVS部門等他部門との連携(地区ベンチャー活動へのローバースカウトの参画、技能章講習会へのローバースカウトの関与等)を行い、ローバースカウトが後輩スカウトの前で活躍する機会を設けることで、VS以下の年代の上進意欲を高め、中途退団を抑制します。
			重(1)-①	団訪問、情報提供及び団委員長サミット等による団活性化の支援をします。目標全団
4 団担当 コミッショナー	地区内の団の情報を、団委員長とのコミュニケーションを密にして収集し、団運営を支援する	副コミッショナー 6名	重(1)-②	文科省事業を含む募集活動計画の確認と必要な支援の手配をします。：5月以降全団
			重(2)-②	スカウト数カテゴリーD(ランク1)の団の活動に支援をします。：5月以降6個団
			重(1)-①	団訪問、情報提供及び団委員長サミット等による団活性化の支援をします。目標全団
5 事務局	地区全般事務関連業務	事務長 副事務長 会計係	1.	愛知連盟地区事務長会議へ参画します。
			2.	地区協議会(総会含む) 年2回、団委員長会議 年3回、地区委員会年9回開催します。
			3.	危機管理委員会を開催します。
			4.	地区財政・財務管理、表彰関連、資料管理をします。
			5.	各委員会と協働し資料作成など事務作業をします。
			6.	県連情報伝達等による配布資料の分配、情報伝達のスピード化を図ります。

令和4年度・尾張東地区諸会議/行事

開催会議名称		開催日(基本計画)	時間	場所(部屋名)	4/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
地区諸会議	地区協議会(総会を含む)		18:00		10												9						
	地区委員会	指定月 第2日曜日	19:00	レディヤン 研修室		8	12	10		11		13	11	9		5・26		14	11	9			
	団委員長会議	指定月 第2土曜日	19:00 9:00	レディヤン 研修室 指定場所 * サミット												11		2					
	企画会議	指定月 指定日時	17:30	レディヤン 第1集会室	24	22	26		28	25	23	27	25	22	25	12		23	28	25		27	
	地区コミ会議	偶数月 第4日曜日	19:00	レディヤン 第1集会室	2				28		23		25	21				2					
	団担当コミ会議	指定月 指定日時	17:30	レディヤン 第1集会室	2		12			11		13	11		11			2		11			
	地区名誉会議	指定月 指定日時	17:30	レディヤン 第1会議室												25							
	組織・拡充委員会	指定月 指定日	19:00	レディヤン 第4会議室		15		17		19		20		15		19			14		16		
	総務委員会	指定月 指定日	19:00	レディヤン 第2会議室	3		4			3		5		28				1		3			
	指導者養成委員会				第1会議室	17		19		21		23		18		19		16		18		20	
	スカウト進歩委員会	偶数月 第3日曜日	19:00	レディヤン 第2会議室	17		19		21		23		18		19		16		18		20		
	行事・国際委員会				第4会議室	17		19		21		23		18		19		16		18		20	
	RT	BVS隊	指定月第4日曜日	19:00	レディヤン 第2集会室		22	26	24		25	23	27		22	26			28	25	23		
		CS隊			レディヤン 第2会議室		22	26	24		11	22-23	27		22	26			28	25	23		
BS隊		レディヤン 第1会議室				22	26	24		25		5-6 27		22	25-26			27-28	25	23			
VS隊		レディヤン 第1集会室				22	26	24		25	23	27		22	26			28	25	23			
RS隊		指定月 指定日時		オンライン	9		11				22				25		8		10				
地区ローバス会議	指定月 指定日時			指定場所	9		11			10	22		29		25		8		10				
地区団登録審査	地区			レディヤン 指定場所											19・25								
スカウト対象	技能章 A(隊長認定技能章)			未定								5,6											
	VS技能章(救急Ⅰ)			犬山野外活動センター			12																
	VS技能章(救急Ⅱ)			未定							16												
	VS技能章(野営管理)			未定							30												
	VS技能章(看護)			未定										15									
	BS技能章(観察・計測)			未定								7											
	スカウトフォーラム			犬山野外活動センター			11																
地区トレーニングチーム会議	地区TT		( )はチーム会議							29													
指導者対象	定形外訓練	CS部門研修会	指導者養成委員会	小牧市北里市民センター		22																	
		スカウトと環境教育研修会		レディヤン春日井			26																
		指導者研修会1		レディヤン春日井				28															
		指導者研修会2		レディヤン春日井							25												
		「いじめと障害」安心な場所づくり		レディヤン春日井									26										
	定型訓練	ボ-イスカウト講習会 4-11		小牧市心れあいセンター								4											
		ボ-イスカウト講習会 4-16		未定														12					
		WB研 SC愛知第17期 基本型		新城 吉川野営場			29~2																
		WB研 SC愛知第18期 基本型		新城 吉川野営場								16~19											
		WB研 課程別研修		未定									30										
		団委員研修所 第43期		新城 吉川野営場									8~10										
		ウッドクラフトコース 第3期		新城 吉川野営場			3~8																
		コミッショナーベ-シットトレーニング		新城 吉川野営場									23~26										
		コミッショナー任務別研修 地区コミ課程		新城 吉川野営場										12~13									
日本連盟 全国大会		兵庫県姫路市			28~29																		
愛知連盟 年次総会		名古屋国際センター別棟				19																	
第18回日本スカウトジャンボリー		東京 中央会場						5~10															
第18回日本スカウトジャンボリー愛知大会		新城 吉川野営場						5~10															
尾張ブロックジャンボリーサマー		岐阜 各務原市(予定)						6~9															
第25回世界スカウトジャンボリー		韓国 全羅北道センマングム																		1~12			
防災ボランティアコーディネーター養成講座		未定									*												
RS対象「リクルート懇談会」		未定												*									
RS対象「セーフ・フロム・ハームセミナー」		未定											*										
地区指導者向け「セーフ・フロム・ハーム研修会」(未修了者)		レディヤン春日井				5																	
地区カブラリー		未定										13											
防災キャラバン(予定)		扶桑・春日井・長久手					下旬~月上旬(予定)				30(春日井)			22(長久手) 予定									

祝日振替休日が月曜日にある場合は、月曜日に会議を開催する

但し会議重複がある場合は地区委員会を優先する

会議室の変更もあります